

本 社:〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX 13階

●本社の担当部署は下記の通りですのでご照会下さい。

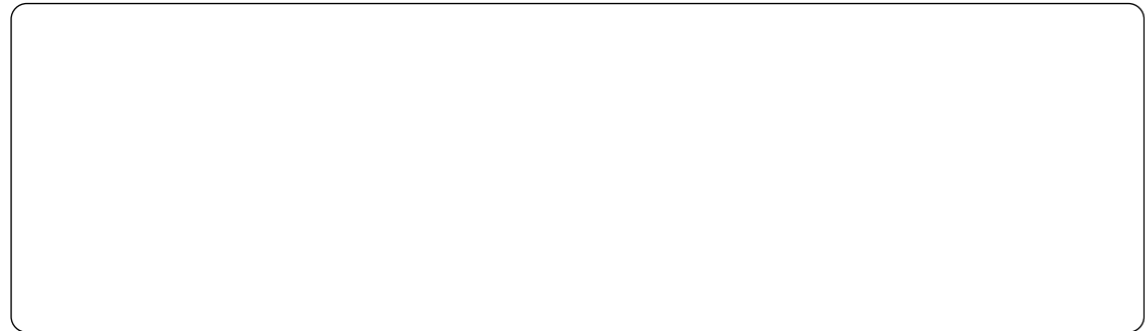
床商品営業部:TEL03-6625-6140 FAX03-6625-6131

支店・営業所

長野営業所	☎026(228)6318 FAX026(228)6317 〒380-0823	長野市南千歳1-12-7 新正和ビル
北海道支店	☎011(281)2551 FAX011(231)6237 〒060-0042	札幌市中央区大通西5-11-1
東北支店	☎022(221)4572 FAX022(265)6553 〒980-0811	仙台市青葉区一番町3-6-1 一番町平和ビル
北東北営業所	☎019(652)4648 FAX019(651)7445 〒020-0021	盛岡市中央通2-2-5 甲南アセット盛岡ビル
釜石営業所	☎0193(22)5167 FAX0193(22)5168 〒026-8567	釜石市鈴子町23-15 東日本製鉄所釜石地区本館
新潟支店	☎025(247)1321 FAX025(241)8304 〒950-0087	新潟市中央区東大通1-3-10 大樹生命新潟ビル
静岡支店	☎054(255)0441 FAX054(251)2950 〒420-0857	静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル
名古屋支店	☎052(564)7221 FAX052(564)4754 〒450-0003	名古屋市中村区名駅南2-13-18 NSビル
北陸支店	☎076(432)6306 FAX076(432)1675 〒930-0004	富山市桜橋通り1-18 北日本桜橋ビル
大阪支店	☎06(6202)1682 FAX06(6202)2005 〒541-0042	大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋三井ビルディング
四国支店	☎087(823)4123 FAX087(823)4124 〒760-0017	高松市番町1-6-1 高松NKビル
中国支店	☎082(511)1008 FAX082(223)0538 〒730-0017	広島市中区鉄砲町10-12 広島鉄砲町ビルディング
山陰営業所	☎0852(27)5323 FAX0852(27)1145 〒690-0006	松江市伊勢宮町519-1 松江大同生命ビル
九州支店	☎092(281)8113 FAX092(281)9908 〒812-0025	福岡市博多区店屋町5-18 博多NSビル
南九州営業所	☎099(250)9505 FAX099(250)8664 〒890-0046	鹿児島市西田1-5-1 鹿児島高見橋ビル
沖縄営業所	☎098(861)7911 FAX092(281)9909 〒900-0015	那覇市久茂地1-12-12 ニッセイ那覇センタービル
製造所		
野木製造所	☎0280(57)4331 FAX0280(57)4717 〒329-0105	栃木県下都賀郡野木町川田33-15

■ご注意とお願い

- 本資料に記載された技術情報は、製品の代表的な特性や性能を証明するためのものであり、「規格」の規定事項として明記したものを除き、保証を意味するものではありません。
- 本資料に記載されている情報の誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更される場合がありますので、最新の情報については、各担当部署にお問合わせください。
- 本資料に記載された内容の無断転載や複製はご遠慮ください。



床がすべてを語る。

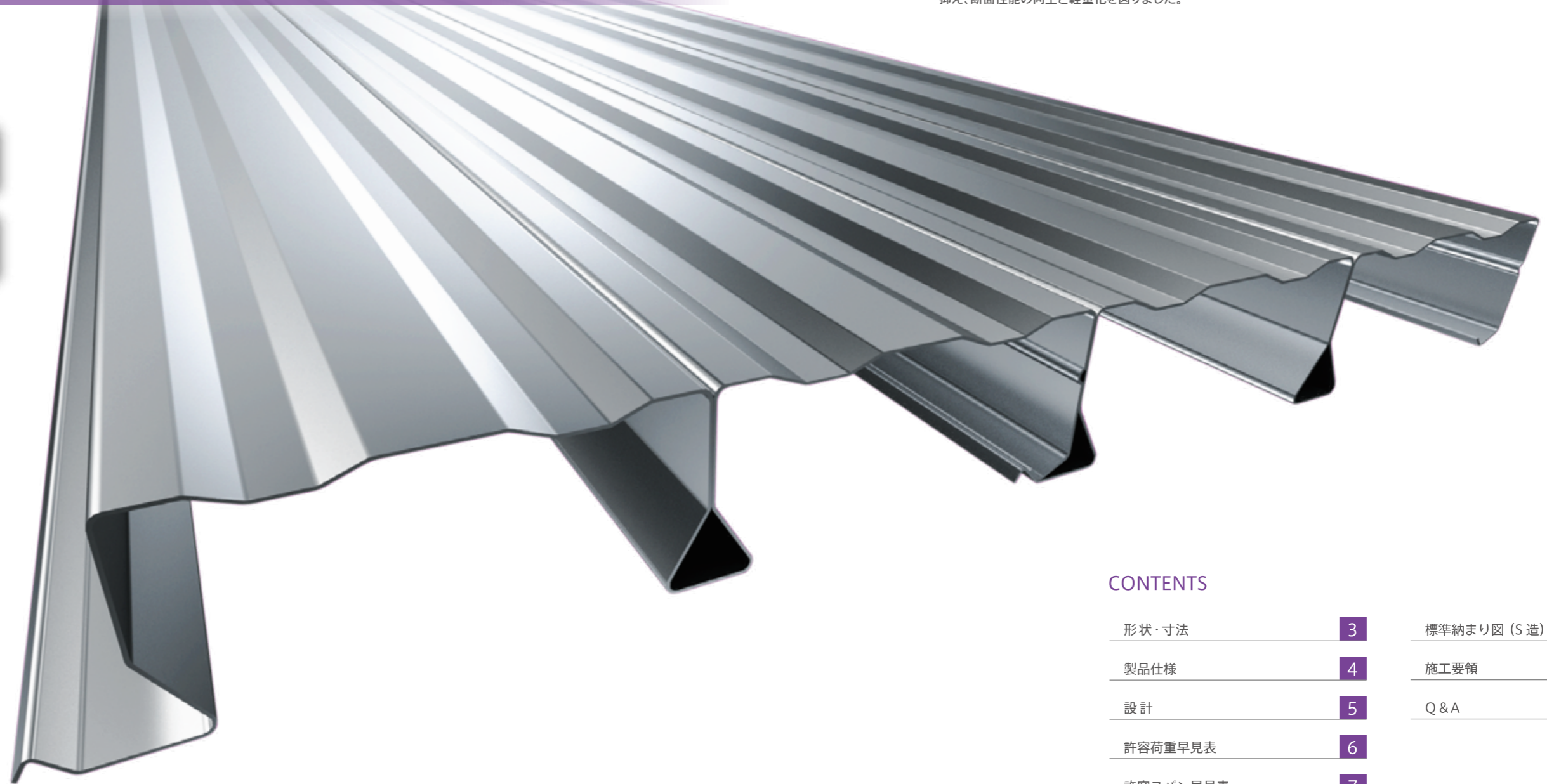
床型枠用鋼製デッキプレート (アクロスデッキ)

特許取得済

「アクロスデッキ (商品名)」はデッキ高さを 90mm まで高くし、さらに平板部に小さいリブを設けること
によって断面性能を向上させ、従来よりも高荷重・ロングスパンでの設計が低コストで可能になります。

従来の「セーフティフラット (商品名)」よりも高荷重・ロングスパンを可能にした「アクロスデッキ (商品
名)」は、大型物件への対応とコスト削減や省力化など、現在のマーケットニーズに適しています。

最適用途



床施工の革命

高性能化を実現しさらなる経済性を確保

工期短縮

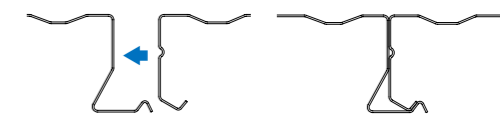
高荷重・ロングスパンのため中間サポート類
の仮設資材削減が可能です。

優れた施工性

スライドかんごうにより施工性が向上しました。

コスト低減

全断面有効としたことでリブ高さを 90mm に
抑え、断面性能の向上と軽量化を図りました。



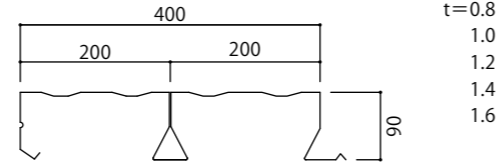
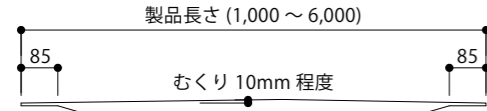
CONTENTS

形状・寸法	3	標準納まり図 (S 造)	11
製品仕様	4	施工要領	13
設計	5	Q & A	14
許容荷重早見表	6		
許容スパン早見表	7		

形状・寸法

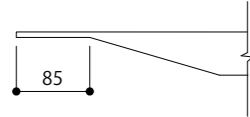
注) 改良等のため予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承下さい。

側面

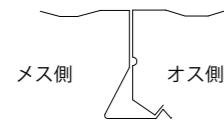


*1 1m²あたりの塗装面積はアクロスデッキ [2.3m²] です。

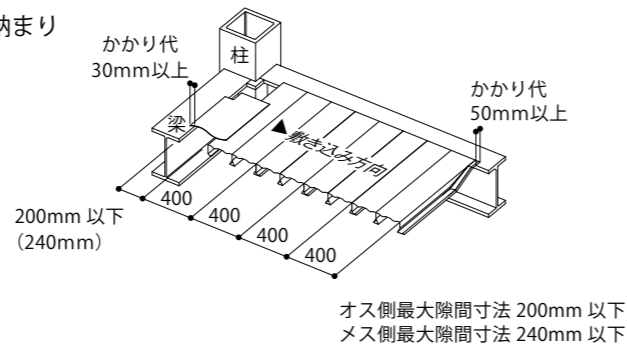
端部形状



相互の接合

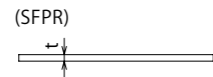


標準納まり



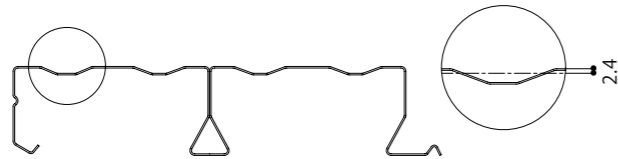
オス側最大隙間寸法 200mm 以下
メス側最大隙間寸法 240mm 以下

Pタイプ (調整プレート)

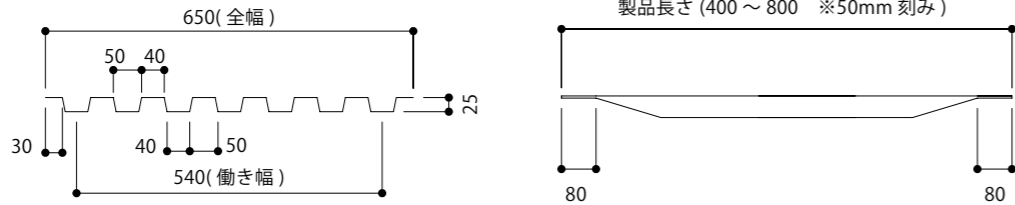


略号	板厚 t (mm)	幅 W (mm)	長さ (mm)
P2	1.2	200	1,500又は800
P3	1.2	300	
P4	1.6	400	

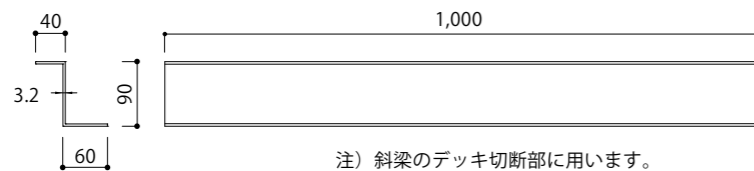
溝部換算スラブ厚さ



KP-ES-T (単位 : mm)



Z金物 (AKZ)



注) 斜梁のデッキ切断部に用います。

製品仕様

材質・機械的性質

品名	板厚 (mm)	製品規格 (JIS G3352)	降伏点 又は 耐力 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)
アクロスデッキ	0.8	SDP2G	235以上	400以上
	1.0			
	1.2			
	1.4			
	1.6			
KP-ES-T	0.8	SGCC	205以上	295以上
AKZ	3.2	-	-	-

製品質量

品名	板厚 (mm)	長さ当り (kg/m)		面積当り (kg/m ²)	
		Z12	Z27	Z12	Z27
アクロスデッキ	0.8	5.75	5.92	14.4	14.8
	1.0	7.13	7.31	17.8	18.3
	1.2	8.52	8.69	21.3	21.7
	1.4	9.89	10.1	24.7	25.2
	1.6	11.3	11.4	28.2	28.5
KP-ES-T	0.8	5.89	-	10.1	-
AKZ	3.2	4.57	-	-	-

めっきの付着量

種類	表示記号	付着量 (g/m ²)*1	標準生産
溶融亜鉛めっき	Z12	120	○
	Z27	275	
スーパーダイマ [®]	K12	120	*2
	K18	180	
	K27	275	

• 「スーパーダイマ」は日本製鉄株式会社の高耐食性めっき鋼板の商品名です。

*1 両面3点平均付着量

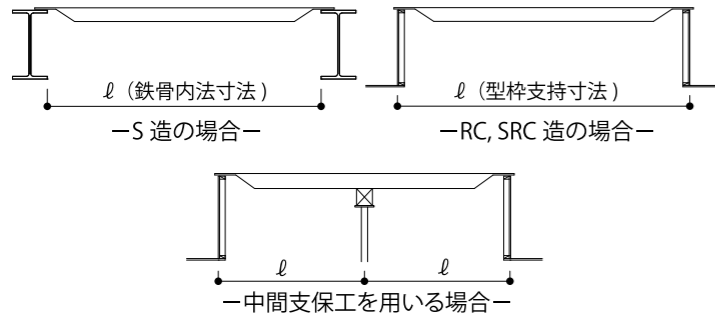
*2 Z27、スーパーダイマ製品をご希望の場合は納期・最小ロットについてお問い合わせ下さい。
(KP-ES-T、及び AKZ については Z27、スーパーダイマ製品はありません)

短期許容応力度・断面性能・許容支圧荷重

品名	板厚 (mm)	短期許容応力度 (N/mm ²)	断面二次モーメント I (×10 ⁴ mm ⁴ /m)	断面係数 Zt (×10 ³ mm ³ /m)	たわみ算定用係数 C	許容支圧荷重 Pa (N/m)
アクロスデッキ	0.8	235	203	35.1	1.1	11,200
	1.0		253	43.7		16,800
	1.2		304	52.2		22,400
	1.4		353	60.6		28,000
	1.6		403	69.1		33,700
KP-ES-T	0.8	205	12.2	9.80	-	-

設計

1 スパンの取り方



2 安全性を確保するための施工割増係数(RC・SRC造の場合)

施工状況の種類	施工割増係数(α)	施工条件
I類	1.00	荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合。
II類	1.25	I類以外の場合で、板厚1.0mmまたは1.2mmのアクロスデッキを使用する場合。
III類	1.50	I類以外の場合で、板厚0.8mmのアクロスデッキを使用する場合。

注) S造の場合はα=1.00とする。

3 施工時荷重の設定

$$W = W_{DL} + W_{DP} + W_{WL} \text{ (N/m}^2\text{)}$$

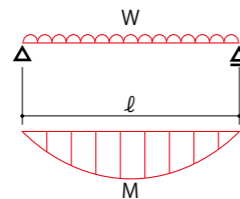
W_{DL}: 鉄筋コンクリートスラブ自重。溝部コンクリート(換算スラブ厚2.4mm)を含む。

W_{DP}: アクロスデッキ自重

W_{WL}: 施工時作業荷重。ポンプ工法の場合は1,470N/m²以上、ホッパー・バケット工法の場合は2,450N/m²以上として下さい。

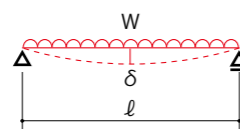
4 断面応力度の検定

$$\sigma = \frac{M}{Z_t} = \frac{W \times \ell^2}{8 \times Z_t} \times 10^3 \leq \frac{f_b}{\alpha}$$



5 たわみの検定

$$\delta = C \times \frac{5 \times W \times \ell^4}{384 \times E \times I} \times 10^9 \leq \frac{1000 \ell}{180} + 5$$



6 エンドクローズ強度の検定

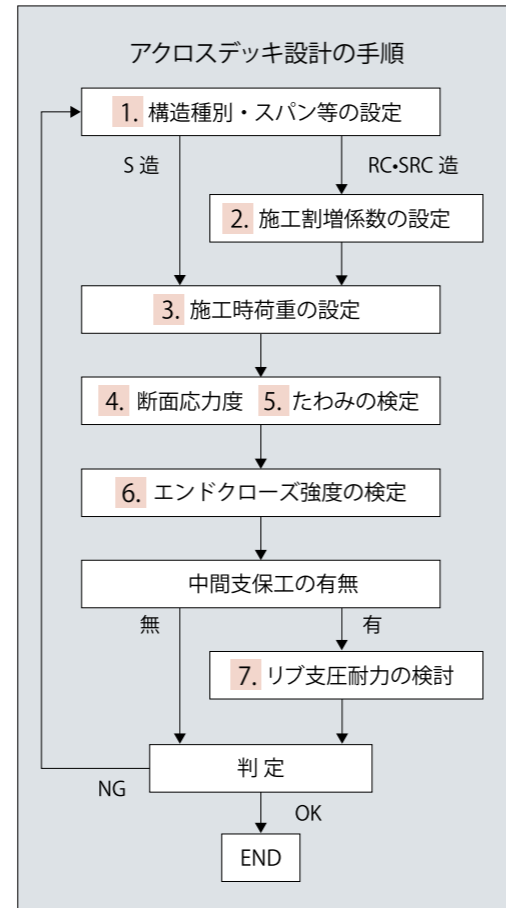
デッキ端部の反力がエンドクローズ強度 ePa を上回らないことを確認して下さい。

$$P_e = W \times \frac{\ell}{2} \leq ePa$$

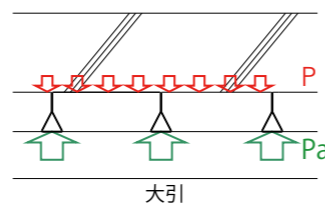
7 リブ支圧耐力の検定(中間支保工を設けた場合のみ)

デッキリブが支圧荷重 P によって座屈しないことを確認して下さい。

$$P = W \times \frac{\ell}{2} \leq Pa$$



M	: 最大曲げモーメント (Nmm/m)
Z _t	: 断面係数 (mm ³ /m)
W	: 施工時の鉛直荷重 (N/m ²)
C	: たわみ算定用係数 (-)
ℓ	: スパン (m)
E	: 鋼材のヤング係数 (=2.05×10 ⁵ N/mm ²)
I	: 断面二次モーメント (mm ⁴ /m)
α	: 施工割増係数 (-)
f _b	: 許容曲げ応力度 (=235N/mm ²)
Pa	: 許容支圧荷重 (N/m)



許容荷重 早見表

S造またはRC・SRC造(オフセット寸法 40mm以下)の場合 (単位: N/m² 小数点以下切り捨て)

構造 施工状況の種類	S造又はRC・SRC造					RC・SRC造															
	I類					II類		III類													
	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8													
板厚 (mm)	施工割増係数: α=1.0					α=1.25			α=1.5												
スパン (m)	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5
	□7,257	□7,257	□7,257	□7,257	□7,257	□7,257	*6,866	6,311	5,716	5,193	4,732	4,324	3,961	3,638	3,349	3,089	2,856	2,645	2,455	2,282	2,125
	□12,057	□12,057	*11,269	□12,057	□12,057	*10,479	*8,549	*8,023	*7,544	*7,106	6,488	5,928	5,431	4,988	4,591	4,235	3,915	3,626	3,365	3,129	2,914
	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	*11,855	*9,583	*9,011	*8,489	7,796	7,123	6,526	5,993	5,516	5,089	4,704	4,358	4,044	3,759	3,501
	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	*11,929	*11,237	10,335	9,443	8,651	7,945	7,313	6,746	6,237	5,777	5,361	4,984	4,641
	*10,515	*9,722	*9,015	*8,383	*7,815	*7,302	*6,839	*6,418	*6,035	*5,685	*5,365	*5,071	*4,800	*4,551	*4,321	*4,107	*3,909	3,626	3,365	3,129	2,914
	□12,057	*11,613	*10,769	*10,013	*9,335	*8,723	*8,169	*7,666	*7,209	*6,791	*6,408	*6,057	*5,734	*5,436	*5,161	*4,906	*4,670	4,358	4,044	3,759	3,501
	*7,038	*6,507	*6,034	*5,611	*5,230	*4,888	*4,577	*4,296	*4,039	*3,805	*3,591	*3,394	*3,213	*3,046	*2,892	*2,749	*2,617	*2,493	*2,379	*2,272	*2,172

置きスラブ等(オフセット寸法 40~55mm以下)の場合

構造 施工状況の種類	置きスラブ等																				
	I類					II類		III類													
	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8													
板厚 (mm)	施工割増係数: α=1.0					α=1.25			α=1.5												
スパン (m)	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5
	□7,257	□7,257	□7,257	□7,257	□7,257	□7,257	*11,360	□12,057	5,716	5,193	4,732	4,324	3,961	3,638	3,349	3,089	2,856	2,645	2,455	2,282	2,125
	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	□12,057	*11,929	*11,237	10,335	9,443	8,651	7,945	7,313	6,746	6,237	5,777	5,361	4,984	4,641
	*10,515	*9,722	*9,015	*8,383	*7,815	*7,302	*6,839	*6,418	*6,035	*5,685	*5,365	*5,071	*4,800	*4,551	*4,321	*4,107	*3,909	3,626	3,365	3,129	2,914
	□12,057	*11,613	*10,769	*10,013	*9,335	*8,723	*8,169	*7,666	*7,209	*6,791	*6,408	*6,057	*5,734	*5,436	*5,161	*4,906	*4,670	4,358	4,044	3,759	3,501
	*7,038	*6,507	*6,034	*5,611	*5,230	*4,888	*4,577	*4,296	*4,039	*3,805	*3,591	*3,394	*3,213	*3,046	*2,892	*2,749	*2,617	*2,493	*2,379	*2,272	*2,172

- 表中の数値はアクロスデッキ自重と施工時作業荷重を含んでいます。
- 上表中の*印はアクロスデッキの曲げ降伏により許容荷重が決まっています。
- 上表中の■印はエンドクローズ強度により許容荷重が決まっています。
- 上表中の□印は、1度打ちで施工可能な最大コンクリート厚さ (t0.8:300mm,t1.0~t1.6:500mm) から許容荷重が決まっています。
- 上表は中間支保工を設けない場合です。

許容スパン 早見表

S造又はRC造・SRC造
乗せ代 50mm (オフセット寸法 40mm 以下) の場合

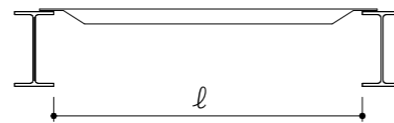
(施工時作業荷重 $W_{WL} = 1,470\text{N/m}^2$)

(単位: mm ただし10mm 単位にて表示)

構造		S造又はRC造・SRC造 (おセット寸法 40mm 以下)					RC造・SRC造 (おセット寸法 40mm 以下)		
施工状況の種類		I 類					II 類		III 類
アクロス板厚 (mm)		0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8
種類	スラブ厚	施工割増係数: $\alpha = 1.0$					$\alpha = 1.25$		$\alpha = 1.5$
普通 コンクリート 24 (kN/m ³)	120	3,540	3,900	4,120	4,310	4,480	*3,780	*4,120	*3,100
	130	3,480	3,830	4,050	4,240	4,410	*3,680	*4,010	*3,020
	140	3,430	3,780	3,990	4,180	4,350	*3,600	*3,920	*2,950
	150	3,380	3,720	3,930	4,120	4,280	*3,510	*3,830	*2,880
	160	3,330	3,670	3,880	4,060	4,230	*3,440	*3,750	*2,820
	170	3,290	3,620	3,830	4,010	4,170	*3,360	*3,670	*2,760
	180	3,250	3,580	3,780	3,960	4,120	*3,300	*3,590	*2,700
	190	3,210	3,530	3,740	3,910	4,070	*3,230	*3,520	*2,650
	200	3,170	3,490	3,690	3,860	4,020	*3,170	*3,460	*2,600
	210	*3,130	3,450	3,650	3,820	3,980	*3,120	*3,400	*2,550
	220	*3,080	*3,420	3,610	3,780	3,930	*3,060	*3,340	*2,510
	230	*3,020	*3,370	3,570	3,740	3,890	*3,010	*3,280	*2,470
	240	*2,970	*3,310	3,540	3,700	3,850	*2,960	*3,230	*2,430
	250	*2,930	*3,260	3,500	3,670	3,820	*2,920	*3,180	*2,390
	260	*2,880	*3,210	3,470	3,630	3,780	*2,870	*3,130	*2,350
	270	*2,840	*3,160	3,440	3,600	3,750	*2,830	*3,090	*2,320
	280	*2,800	*3,120	*3,400	3,570	3,710	*2,790	*3,040	*2,280
290	*2,760	*3,070	*3,350	3,530	3,680	*2,750	*3,000	*2,250	
300	*2,720	*3,030	*3,310	3,500	3,650	*2,710	*2,960	*2,220	

軽量 コンクリート 20 (kN/m ³)	120	3,670	4,040	4,270	4,460	4,640	*4,000	4,270	*3,290
	130	3,610	3,980	4,200	4,390	4,570	*3,910	4,200	*3,210
	140	3,560	3,920	4,140	4,330	4,510	*3,820	4,140	*3,130
	150	3,510	3,870	4,090	4,280	4,450	*3,740	*4,070	*3,070
	160	3,470	3,820	4,030	4,220	4,390	*3,660	*3,990	*3,000
	170	3,420	3,770	3,980	4,170	4,340	*3,590	*3,910	*2,940
	180	3,380	3,720	3,940	4,120	4,290	*3,520	*3,830	*2,890
	190	3,340	3,680	3,890	4,070	4,240	*3,450	*3,760	*2,830
	200	3,300	3,640	3,850	4,030	4,190	*3,390	*3,700	*2,780
	210	3,270	3,600	3,810	3,980	4,150	*3,330	*3,630	*2,730
	220	3,240	3,560	3,770	3,940	4,100	*3,280	*3,570	*2,690
	230	3,200	3,530	3,730	3,900	4,060	*3,230	*3,520	*2,650
	240	3,170	3,490	3,690	3,860	4,020	*3,180	*3,460	*2,600
	250	*3,140	3,460	3,660	3,830	3,990	*3,130	*3,410	*2,560
	260	*3,100	3,430	3,630	3,790	3,950	*3,080	*3,360	*2,530
	270	*3,050	*3,400	3,590	3,760	3,910	*3,040	*3,310	*2,490
	280	*3,010	*3,350	3,560	3,730	3,880	*3,000	*3,270	*2,460
290	*2,970	*3,310	3,530	3,700	3,850	*2,960	*3,220	*2,420	
300	*2,930	*3,260	3,500	3,670	3,820	*2,920	*3,180	*2,390	

- 許容スパンは、表のスラブ厚に溝部の換算スラブ厚 (2.4mm) を加算したコンクリート量から算出しています。
- 上表は施工時の作業荷重を $1,470\text{N/m}^2$ とした場合です。それ以外のお問合せ下さい。
- 上表中の*印はアクロスデッキの曲げ降伏により許容スパンが決まっています。
- RC、SRC 造などで、使用スパンが 3,000mm を超える場合は、スパン中間に支保工を設けて下さい。
- スラブ厚が 300mm を超える場合は、別途ご相談下さい。



許容スパン 早見表 (中間支保工有)

S造又はRC造・SRC造
乗せ代 50mm (オフセット寸法 40mm 以下) の場合

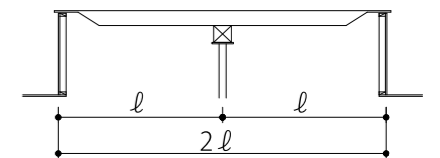
(施工時作業荷重 $W_{WL} = 1,470\text{N/m}^2$)

(単位: mm ただし10mm 単位にて表示)

許容スパン $2l$ (mm)	スラブ厚	中間支保工あり								
		I 類				II 類		III 類		
		0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8	
普通 コンクリート 24 (kN/m ³)	120	◆4,910	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	◆4,910	
	130	◆4,670	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,670	
	140	◆4,450	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆4,450	
	150	◆4,240	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆4,240	
	160	◆4,060	6,000	↑	↑	↑	↑	6,000	◆4,060	
	170	◆3,890	◆5,800	↑	↑	↑	↑	◆5,800	◆3,890	
	180	◆3,730	◆5,570	↑	↑	↑	↑	◆5,570	◆3,730	
	190	◆3,590	◆5,360	↑	↑	↑	↑	◆5,360	◆3,590	
	200	◆3,460	◆5,160	↑	↑	↑	↑	◆5,160	◆3,460	
	210	◆3,330	◆4,970	↑	↑	↑	↑	◆4,970	◆3,330	
	220	◆3,220	◆4,800	↓	↑	↑	↑	◆4,800	◆3,220	
	230	◆3,110	◆4,640	6,000	↑	↑	↑	◆4,640	6,000	◆3,110
	240	◆3,010	◆4,490	◆5,970	↑	↑	↑	◆4,490	◆5,970	◆3,010
	250	◆2,910	◆4,350	◆5,780	↑	↑	↑	◆4,350	◆5,780	◆2,910
	260	◆2,830	◆4,220	◆5,610	↑	↑	↑	◆4,220	◆5,610	◆2,830
	270	◆2,740	◆4,100	◆5,440	↑	↑	↑	◆4,100	◆5,440	◆2,740
	280	◆2,660	◆3,980	◆5,290	↑	↑	↑	◆3,980	◆5,290	◆2,660
290	◆2,590	◆3,870	◆5,140	↓	↓	↓	◆3,870	◆5,140	◆2,590	
300	◆2,520	◆3,770	◆5,010	6,000	6,000	6,000	◆3,770	◆5,010	◆2,520	

軽量 コンクリート 20 (kN/m ³)	120	◆5,510	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	◆5,510	
	130	◆5,250	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆5,250	
	140	◆5,010	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆5,010	
	150	◆4,800	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆4,800	
	160	◆4,600	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆4,600	
	170	◆4,420	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆4,420	
	180	◆4,250	↓	↑	↑	↑	↑	↓	◆4,250	
	190	◆4,090	6,000	↑	↑	↑	↑	6,000	◆4,090	
	200	◆3,950	◆5,890	↑	↑	↑	↑	◆5,890	◆3,950	
	210	◆3,810	◆5,690	↑	↑	↑	↑	◆5,690	◆3,810	
	220	◆3,690	◆5,510	↑	↑	↑	↑	◆5,510	◆3,690	
	230	◆3,570	◆5,330	↑	↑	↑	↑	◆5,330	◆3,570	
	240	◆3,460	◆5,170	↑	↑	↑	↑	◆5,170	◆3,460	
	250	◆3,360	◆5,010	↑	↑	↑	↑	◆5,010	◆3,360	
	260	◆3,260	◆4,870	↑	↑	↑	↑	◆4,870	◆3,260	
	270	◆3,170	◆4,730	↓	↑	↑	↑	◆4,730	↓	◆3,170
	280	◆3,080	◆4,600	6,000	↑	↑	↑	◆4,600	6,000	◆3,080
290	◆3,000	◆4,480	◆5,940	↓	↓	↓	◆4,480	◆5,940	◆3,000	
300	◆2,920	◆4,360	◆5,790	6,000	6,000	6,000	◆4,360	◆5,790	◆2,920	

- 許容スパンは、表のスラブ厚に溝部の換算スラブ厚 (2.4mm) を加算したコンクリート量から算出しています。
- 上表は施工時の作業荷重を $1,470\text{N/m}^2$ とした場合です。それ以外のお問合せ下さい。
- 上表中の◆印はアクロスデッキの支圧降伏により許容スパンが決まっています。
- 表中の許容スパンは $2l$ を示します。
- スラブ厚が 300mm を超える場合は、別途ご相談下さい。



許容スパン 早見表

置きスラブ等
乗せ代 30mm (オフセット寸法 40 ~ 55mm) の場合

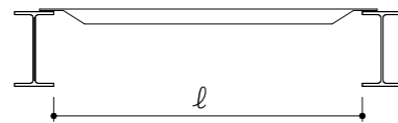
(施工時作業荷重 $W_{WL} = 1,470\text{N/m}^2$)

(単位: mm ただし10mm 単位にて表示)

構造		置きスラブ等 (オフセット寸法 40 ~ 55mm 以下)								
施工状況の種類		I 類			II 類			III 類		
アクロス板厚 (mm)		0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8	
種類	スラブ厚	施工割増係数: $\alpha = 1.0$						$\alpha = 1.25$		$\alpha = 1.5$
普通 コンクリート 24 (kN/m ³)	120	3,540	3,900	4,120	4,310	4,480	*3,780	*4,120	*3,100	
	130	3,480	3,830	4,050	4,240	4,410	*3,680	*4,010	*3,020	
	140	3,430	3,780	3,990	4,180	4,350	*3,600	*3,920	*2,950	
	150	3,380	3,720	3,930	4,120	4,280	*3,510	*3,830	*2,880	
	160	3,330	3,670	3,880	4,060	4,230	*3,440	*3,750	*2,820	
	170	3,290	3,620	3,830	4,010	4,170	*3,360	*3,670	*2,760	
	180	3,250	3,580	3,780	3,960	4,120	*3,300	*3,590	*2,700	
	190	3,210	3,530	3,740	3,910	4,070	*3,230	*3,520	*2,650	
	200	3,170	3,490	3,690	3,860	4,020	*3,170	*3,460	*2,600	
	210	*3,130	3,450	3,650	3,820	3,980	*3,120	*3,400	*2,550	
	220	■3,070	*3,420	3,610	3,780	3,930	*3,060	*3,340	*2,510	
	230	■2,970	*3,370	3,570	3,740	3,890	*3,010	*3,280	*2,470	
	240	■2,870	*3,310	3,540	3,700	3,850	*2,960	*3,230	*2,430	
	250	■2,780	*3,260	3,500	3,670	3,820	*2,920	*3,180	*2,390	
	260	■2,700	*3,210	3,470	3,630	3,780	*2,870	*3,130	*2,350	
	270	■2,620	*3,160	3,440	3,600	3,750	*2,830	*3,090	*2,320	
280	■2,540	*3,120	*3,400	3,570	3,710	*2,790	*3,040	*2,280		
290	■2,470	*3,070	*3,350	3,530	3,680	*2,750	*3,000	*2,250		
300	■2,410	*3,030	*3,310	3,500	3,650	*2,710	*2,960	*2,220		

軽量 コンクリート 20 (kN/m ³)	120	3,670	4,040	4,270	4,460	4,640	*4,000	4,270	*3,290	
	130	3,610	3,980	4,200	4,390	4,570	*3,910	4,200	*3,210	
	140	3,560	3,920	4,140	4,330	4,510	*3,820	4,140	*3,130	
	150	3,510	3,870	4,090	4,280	4,450	*3,740	*4,070	*3,070	
	160	3,470	3,820	4,030	4,220	4,390	*3,660	*3,990	*3,000	
	170	3,420	3,770	3,980	4,170	4,340	*3,590	*3,910	*2,940	
	180	3,380	3,720	3,940	4,120	4,290	*3,520	*3,830	*2,890	
	190	3,340	3,680	3,890	4,070	4,240	*3,450	*3,760	*2,830	
	200	3,300	3,640	3,850	4,030	4,190	*3,390	*3,700	*2,780	
	210	3,270	3,600	3,810	3,980	4,150	*3,330	*3,630	*2,730	
	220	3,240	3,560	3,770	3,940	4,100	*3,280	*3,570	*2,690	
	230	3,200	3,530	3,730	3,900	4,060	*3,230	*3,520	*2,650	
	240	3,170	3,490	3,690	3,860	4,020	*3,180	*3,460	*2,600	
	250	*3,140	3,460	3,660	3,830	3,990	*3,130	*3,410	*2,560	
	260	*3,100	3,430	3,630	3,790	3,950	*3,080	*3,360	*2,530	
	270	■3,020	*3,400	3,590	3,760	3,910	*3,040	*3,310	*2,490	
280	■2,940	*3,350	3,560	3,730	3,880	*3,000	*3,270	*2,460		
290	■2,860	*3,310	3,530	3,700	3,850	*2,960	*3,220	*2,420		
300	■2,790	*3,260	3,500	3,670	3,820	*2,920	*3,180	*2,390		

- 許容スパンは、表のスラブ厚に溝部の換算スラブ厚 (2.4mm) を加算したコンクリート量から算出しています。
- 上表は施工時の作業荷重を $1,470\text{N/m}^2$ とした場合です。それ以外の場合はお問合せ下さい。
- 上表中の*印はアクロスデッキの曲げ降伏により許容スパンが決まっています。
- 上表中の■印はエンドクローズ強度により許容スパンが決まっています。
- RC、SRC 造などで、使用スパンが 3,000mm を超える場合は、スパン中間に支保工を設けて下さい。
- スラブ厚が 300mm を超える場合は、別途ご相談下さい。



許容スパン 早見表 (中間支保工有)

置きスラブ等
乗せ代 30mm (オフセット寸法 40 ~ 55mm) の場合

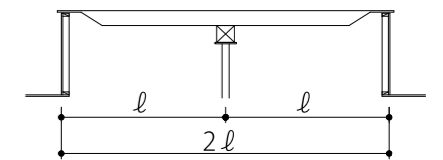
(施工時作業荷重 $W_{WL} = 1,470\text{N/m}^2$)

(単位: mm ただし10mm 単位にて表示)

許容スパン $2l$ (mm)	スラブ厚	中間支保工あり								
		I 類					II 類		III 類	
		0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8	
普通 コンクリート 24 (kN/m ³)	120	◆4,910	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	◆4,910
	130	◆4,670	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,670
	140	◆4,450	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,450
	150	◆4,240	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,240
	160	◆4,060	6,000	↑	↑	↑	↑	6,000	↑	◆4,060
	170	◆3,890	◆5,800	↑	↑	↑	↑	◆5,800	↑	◆3,890
	180	◆3,730	◆5,570	↑	↑	↑	↑	◆5,570	↑	◆3,730
	190	◆3,590	◆5,360	↑	↑	↑	↑	◆5,360	↑	◆3,590
	200	◆3,460	◆5,160	↑	↑	↑	↑	◆5,160	↑	◆3,460
	210	◆3,330	◆4,970	↑	↑	↑	↑	◆4,970	↑	◆3,330
	220	◆3,220	◆4,800	↓	↑	↑	↑	◆4,800	↓	◆3,220
	230	◆3,110	◆4,640	6,000	↑	↑	↑	◆4,640	6,000	◆3,110
	240	◆3,010	◆4,490	◆5,970	↑	↑	↑	◆4,490	◆5,970	◆3,010
	250	◆2,910	◆4,350	◆5,780	↑	↑	↑	◆4,350	◆5,780	◆2,910
	260	◆2,830	◆4,220	◆5,610	↑	↑	↑	◆4,220	◆5,610	◆2,830
	270	◆2,740	◆4,100	◆5,440	↑	↑	↑	◆4,100	◆5,440	◆2,740
280	◆2,660	◆3,980	◆5,290	↑	↑	↑	◆3,980	◆5,290	◆2,660	
290	◆2,590	◆3,870	◆5,140	↓	↓	↓	◆3,870	◆5,140	◆2,590	
300	◆2,520	◆3,770	◆5,010	6,000	6,000	6,000	◆3,770	◆5,010	◆2,520	

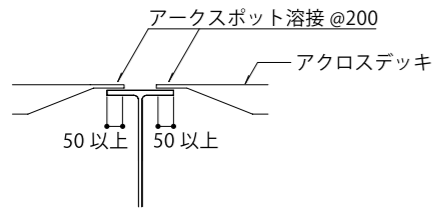
軽量 コンクリート 20 (kN/m ³)	120	◆5,510	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	◆5,510
	130	◆5,250	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆5,250
	140	◆5,010	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆5,010
	150	◆4,800	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,800
	160	◆4,600	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,600
	170	◆4,420	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,420
	180	◆4,250	↓	↑	↑	↑	↑	↓	↑	◆4,250
	190	◆4,090	6,000	↑	↑	↑	↑	6,000	↑	◆4,090
	200	◆3,950	◆5,890	↑	↑	↑	↑	◆5,890	↑	◆3,950
	210	◆3,810	◆5,690	↑	↑	↑	↑	◆5,690	↑	◆3,810
	220	◆3,690	◆5,510	↑	↑	↑	↑	◆5,510	↑	◆3,690
	230	◆3,570	◆5,330	↑	↑	↑	↑	◆5,330	↑	◆3,570
	240	◆3,460	◆5,170	↑	↑	↑	↑	◆5,170	↑	◆3,460
	250	◆3,360	◆5,010	↑	↑	↑	↑	◆5,010	↑	◆3,360
	260	◆3,260	◆4,870	↑	↑	↑	↑	◆4,870	↑	◆3,260
	270	◆3,170	◆4,730	↓	↑	↑	↑	◆4,730	↓	◆3,170
280	◆3,080	◆4,600	6,000	↑	↑	↑	◆4,600	6,000	◆3,080	
290	◆3,000	◆4,480	◆5,940	↓	↓	↓	◆4,480	◆5,940	◆3,000	
300	◆2,920	◆4,360	◆5,790	6,000	6,000	6,000	◆4,360	◆5,790	◆2,920	

- 許容スパンは、表のスラブ厚に溝部の換算スラブ厚 (2.4mm) を加算したコンクリート量から算出しています。
- 上表は施工時の作業荷重を $1,470\text{N/m}^2$ とした場合です。それ以外の場合はお問合せ下さい。
- 上表中の◆印はアクロスデッキの支圧降伏により許容スパンが決まっています。
- 表中の許容スパンは $2l$ を示します。
- スラブ厚が 300mm を超える場合は、別途ご相談下さい。

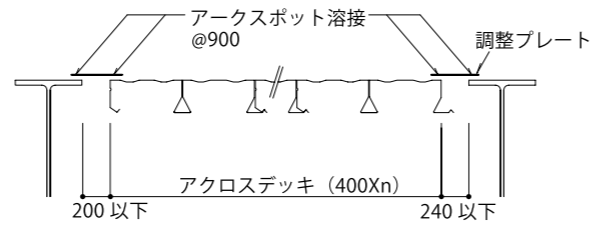


標準納まり図 (S造)

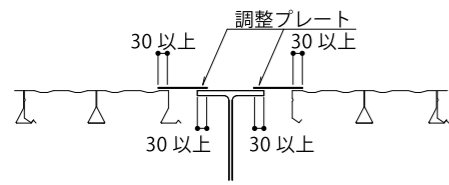
1 デッキ長手方向標準納まり



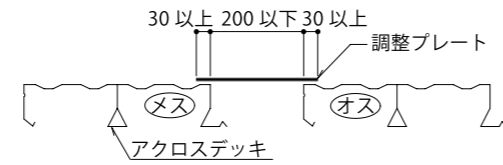
2 デッキ幅方向標準納まり



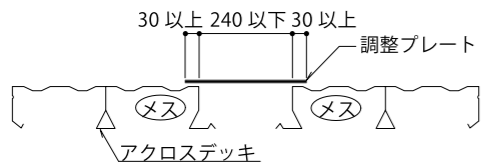
3 調整プレート掛かり代



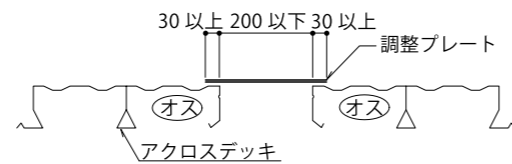
4 メス・オス調整



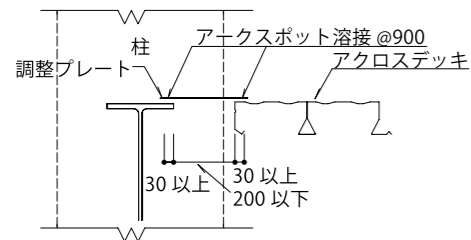
5 メス・メス調整



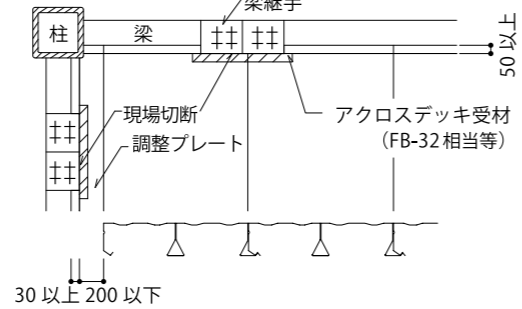
6 オス・オス調整



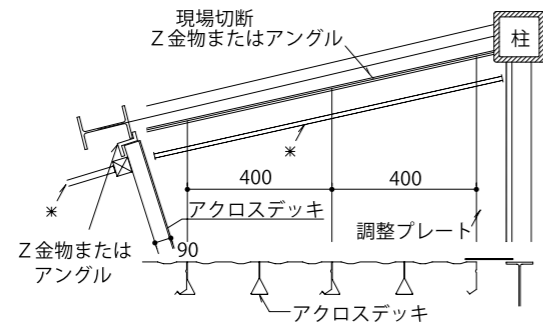
7 柱廻り



8 鉄骨梁接合部

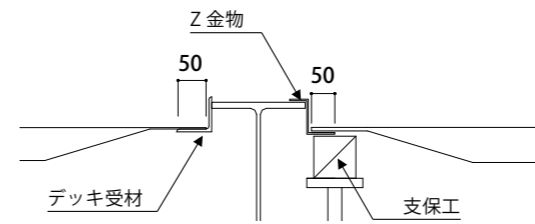


9 斜め梁



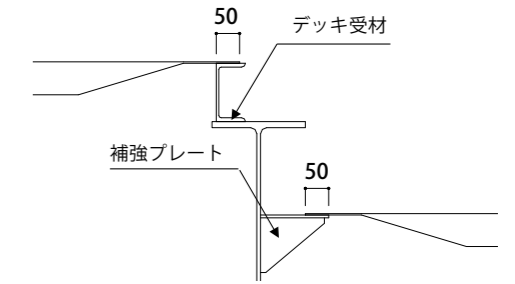
* Z金物を使用する場合は、支保工で支持してください。

段差 長手方向梁周り納まり①

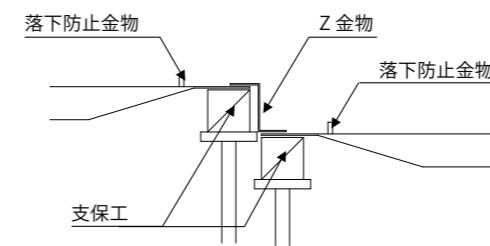


注) Z金物を使用する場合は、個々の検討により支保工の有無を判断下さい。

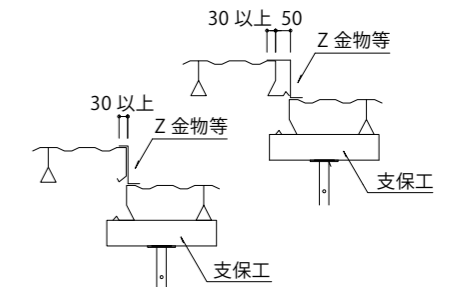
段差 長手方向梁周り納まり②



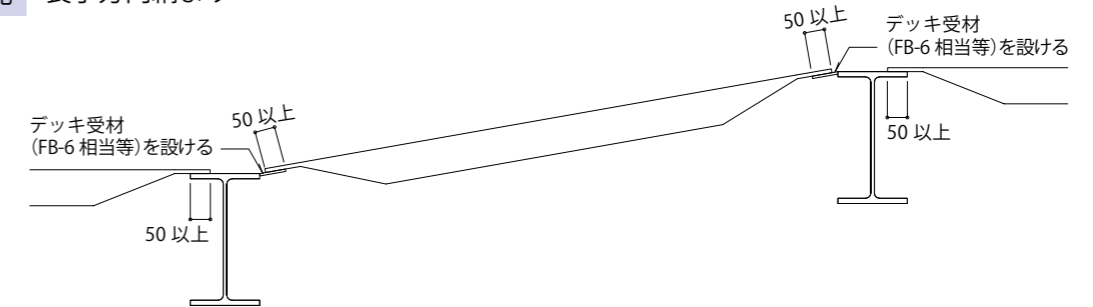
段差 長手方向納まり③



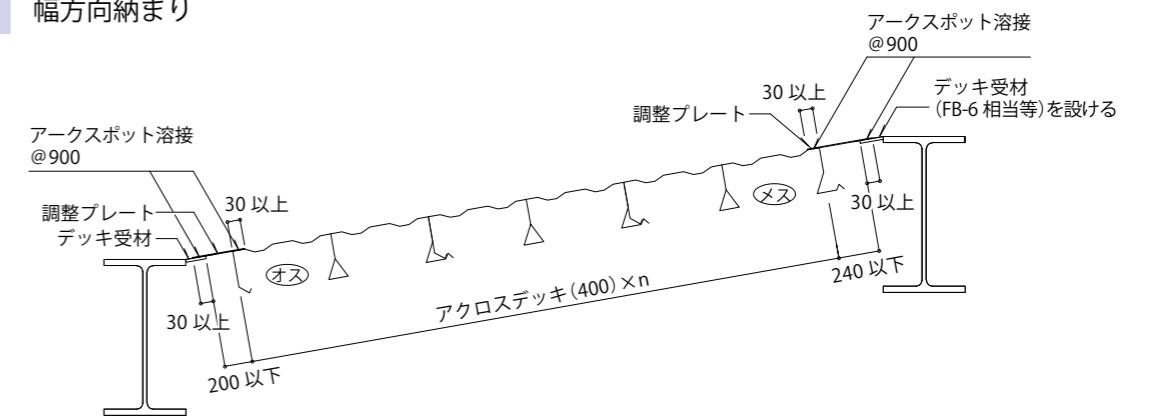
段差 幅方向納まり



勾配 長手方向納まり



勾配 幅方向納まり



注) 適宜、滑り止め処置やアクロスデッキのずれ及び落下防止処置を施して下さい。敷き込み方向勾配の場合は安全上下側から上側に向かって敷き込む施工として下さい。

施工要領

項目	施工要領
1. 計画	(1) 工法、応力、たわみを確認し、割付図（施工図）を作成する (2) 鉄骨や型枠の工程を十分考慮して施工計画を立てる。
2. 搬入・養生	(1) アクロスデッキにワイヤー傷、あて傷がつかないように、また、アクロスデッキの形状保持、防錆、安全に十分注意を払って搬入、養生する。 (2) 鉄骨梁や型枠の上に仮置きする場合、過度の荷重がかからないように分散配置し、また、梁から落下しないように十分養生する。
3. 敷き込み	<p>S造</p> <p>(1) 敷込み前に必ず梁上を清掃する。 (2) 柱回り、梁接合部、梁段差部にてデッキ受け材が施工図通り取付けられているか確認する。 (3) 割付図に従いアクロスデッキを不陸のないように敷込む。 (4) アクロスデッキをアークスポット溶接（標準仕様はφ12以上@200）により梁へ接合する。 (5) アクロスデッキ（標準品）相互の接合は差込み方式になるので通常の場合、溶接は必要ないが、スパンが大きい場合や、デッキ相互の馴染みが良くない場合は必要に応じて溶接する。 (6) アクロスデッキ（標準品）と役物・調整板との重なり部分は、溶接又はビス等で接合する。</p> <p>RC・SRC造</p> <p>(1) 梁型枠の強度・寸法、また縦横木の取付等をチェックする。 (2) 割付図に従いアクロスデッキを不陸のないように敷込む。 (3) アクロスデッキは型枠に釘で接合する。調整板は必要に応じ釘孔付きを使用する。 (4) 標準品と役物、調整板とをアークスポット溶接で接合できない場合、タッピングビスやポップリベット等で接合する。 (5) 梁型枠内にデッキをのみ込ませるか落下防止材の取付等により梁型枠脱型後、デッキが落下しないように施工する。</p> <p>置きスラブ</p> <p>(1) 梁間隔が割付通りか確認する。ずれている場合はアクロスデッキをのみ込みできないことがあるので注意する。 (2) コンクリート梁にデッキを乗せ掛ける場合、乗せ掛け部は不陸がないように平坦にする。 (3) アクロスデッキとコンクリート梁との接合方法は、梁への影響を考慮し、事前に検討する。</p>
4. 切断・孔明け	(1) 切断はガス、プラズマ、電動のこ、グラインダー等を、また、孔明けはホールソー、ドリル等を使用してアクロスデッキの材質・形状を損なわないよう行う。 (2) アクロスデッキを切断する場合、下部作業の安全、他デッキ・梁等の養生に十分注意する。 (3) スリーブ等の開口は原則箱抜き型枠とし、コンクリート硬化後にアクロスデッキを切断する。
5. その他	(1) RC・SRC造では梁型枠がデッキ型枠の支保工の役目をするため梁側型枠の取り外し時期は十分検討する。 (2) 外周梁については必要に応じ偏芯荷重対策を施す。 (3) 中間支保工を用いる場合、大引きがデッキのむくりを拘束しないよう設置する。 (4) デッキスパンが短くスラブが極厚の場合、デッキ端部の強度や中間支保工を用いる場合の大引きに対するデッキリブ底面の支圧耐力を事前に確認する。

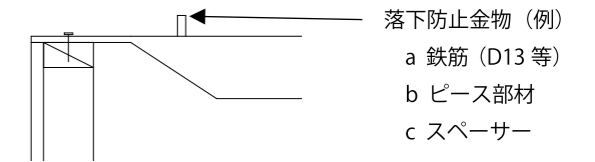
【使用上の注意】

- 仮設作業床として使用する場合、局部的な集中荷重のかからないように注意して下さい。（社）日本建築学会「型枠の設計・施工指針案」等を参照し、安全性を確認して下さい。
- 逆打ち工法および湧水ピット等に利用する場合、発錆のおそれがありますので、十分な対策を講じない限り、適用しないで下さい。
- 雨水等がアクロスデッキ表面に付着している時は、大変すべり易いので注意して下さい。
- アクロスデッキ端部は鋭利な形状になっていますので、必ず皮手袋等を使用して取り扱って下さい。
- アクロスデッキを結束しているバンドを切断する時は、梁へのかかり代に注意し、製品が移動落下しないように注意を払って下さい。

Q&A

Q1 アクロスデッキののみ込み代が確保できない場合の落下防止対策について。

A1 コンクリート打設前にアクロスデッキ上面に何らかの機構を設け、コンクリートに埋め込むことで型枠脱型時の落下防止を図ります。



Q2 アクロスデッキののみ込み代 10mm は構造体に対して問題ないのか。

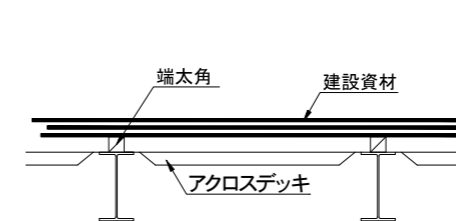
A2 アクロスデッキを躯体内部に約 10mm のみ込ませることによって、側型枠への確実な受けの確保とアクロスデッキの落下を防止しようとしているものです。構造上においても躯体への影響はほとんどないと考えられます。なお、個々の設計に当たっては、設計者によって評価されるべきであると考えます。また、躯体へののみ込み代が許されない場合には、下記の対策が必要になります。

- ① 型枠脱型時の落下を防止するため落下防止金物をアクロスデッキに取り付ける。（Q1 参照）
- ② 支柱によるデッキ受けを設ける。
- ③ 梁幅をのみ込み代分増打ちする。

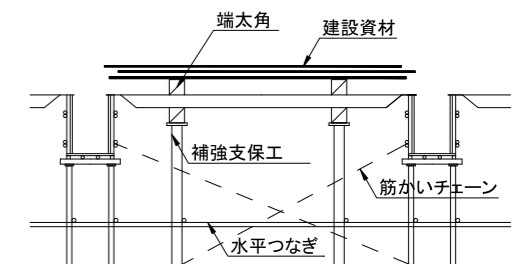
Q3 鉄筋など資材の仮置きに対する補強方法。

A3 鉄筋などの建設資材を集積して仮置きする場合は、原則としてアクロスデッキ型枠に直接荷重が伝達されない置き方として下さい。

- ① S造の場合は端太角等を用いて鉄骨梁で荷重を支えて下さい。
- ② RC、SRC造の場合は支保工などを用いて補強を行って下さい。ただし、水平つなぎなどの水平荷重対策、その他適切な補強対策を講じていることを施工管理者が確認して下さい。



図① 資材仮置き方法 (S造の場合)



図② 資材の仮置き方法 (RC,SRC造の場合)